

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 10 月 31 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473200503
法人名	社会福祉法人F I G福祉会
事業所名	グループホームチェリーゴード
所在地	広島県安芸郡府中町柳ヶ丘40番12号 (電話) 082-508-0265
自己評価作成日	平成 22 年 10 月 15 日
評価結果市町受理日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の持っている力、可能性を最大限引き出せるようにどんな小さなことにでもまずは職員と共に行いホームでの役割や生きがいを持って生活出来るように支援している。ホーム内の生活が閉鎖的にならないよう積極的に外に出るよう力を入れている。月1回外食を行い外食先では実際に好みのメニューをご利用者に選んで頂いている。行先も宮島などの遠方外食も実施している。また日常でも食事作りではご利用者様のご希望の献立を取り入れるようにし作る事への楽しみ食べる事への喜びを職員と共有出来るよう特に力を入れている。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	
------------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この事業所では以下のような理念を掲げている。
 ・利用者と共にある私達 ・愛情のこもった言葉かけと介助
 ・尊敬、感謝の心をはぐくむ ・安心、快適、力の発揮
 理念の実現のために まず、利用者・家族・医療関係者との綿密なコミュニケーションと心遣いを行っている。利用者・家族を含めたカンファレンスや家族の参加の多い運営推進会議、自主アンケートなどからその様子が伺える。また、細かに記録を残しながら介護計画を実践しているのも特徴的である。利用者・家族を含めた定期的カンファレンスでフィードバックしながら、利用者の力を維持・改善しながら、利用者が役割や生きがいを持って生活できるように支援している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成22年10月29日

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	月1回のユニット会議、入居者カンファレンスで理念に沿ったケアを確認し実践していく具体的な内容を話し合い共有している。	『利用者と共にある私達。愛情のこもった言葉かけと介助。尊敬、感謝の心をはぐくむ。安心、快適、力の発揮』という設立時からの理念を貫いて、職員ミーティングや職員自らの目標設定と実践を通じて、理念を共有しケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	行き慣れたスーパーに買い物に行ったり通い慣れた道を外出中を通り地域交流を継続出来るよう心掛けている。地域行事(盆踊り)に参加し地域交流を図っている。	お祭りの子供神輿に事業所内まで入っていただいたり、地域の盆踊りに法人全体で運営に協力したり、地域との良好な関係を築いている。日頃は散歩中や事業所の窓などから近くを通る人と挨拶を交わすなど、地域とつながった生活を送っている。	町内会加入など、さらに地域と良好な関係構築を検討されたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を開催し家族、町内会役員に参加してもらい利用者の活動の取り組み報告を行っている。より認知症について理解していただく為に認知症勉強会を開催している。勉強会内では実際ホーム内での出来事を事例にあげ行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	写真をスライドしながら活動の報告を詳しく説明している。実際に事例をあげ取り組みについて説明している。その際意見を交換しサービス向上に活かしている。	町内会長、町役場、地域包括支援センター、家族、消防署からも参加をいただいて、2ヶ月に1回の頻度で運営推進会議を開いている。特に家族の参加が多く、報告のほか、たくさんの意見交換が行われている。	民生委員や警察、近隣にお住まいの方など 広く参加を呼びかけて、会議をサービス向上に さらに役立てていただきたい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	法人全体として連携をとっている。運営推進会議内でも府中町介護保険係の担当者に出席依頼し、事業所の取組みを伝えている。	利用者の入居まで行政担当者と連携してサポートに当たることがある。行政主催の研修などでも行政と連絡を取り合っており、参加している。また、法人として行政サービスに協力するなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ユニット玄関には鍵はかけていない。ご利用者が外に出られた際は後ろから見守るか一緒に歩いている。やむを得ず鍵を掛けるときは、理由を明確にし時間を決めて行っている。	ユニットの玄関は開放されており自由に出入りできる。利用者が外出したい場合もできるだけ意向に沿い付き添うようにしている。毎月行っているユニット会議では身体拘束に関する学習や話し合いが行われ、また両ユニットのサブリーダー以上で行っているミーティングでも情報交換を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	ユニット会議内で高齢者虐待法に基づく資料を配布しグループホームでも起こりえる可能性はないか検討することで職員へ意識づけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している。	権利擁護に関して勉強会を年間でスケジュールを立て実施する予定としている。現状の入居者に関してはご家族と連携を密にとっており成年後見人制度について該当する方はおられない。今後該当される方に関しての資料は用意しており対応出来るようにはしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ際には契約書、重要事項説明書の内容説明を十分にご利用者・ご家族に行い同意を得ている。解約する際も同様に行い、不安・疑問点を聞きやすい様に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常に気軽に話せて頂けるように心がけている。また法人お客様アンケートを行いアンケート結果に対して現場で話し合う機会をつくり改善している。アンケート結果は一定期間館内に掲示している。併せて意見箱を設置しており随時対応している。	苦情や意見等の受け入れ先を明示し、さらにアンケートを取って積極的に意見・要望を聞き取って、運営に活かし、情報を開示している。また、行事や日常の家族や利用者とのふれあいの中でコミュニケーションを大事にして意見などを表しやすい環境づくりを行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や個人面接を行うことで意見交換の場を設け反映している。	ユニット会議や個人面談で職員からの意見・要望を聞いて運営に活かしている。また、事業所の代表者は毎月法人の施設長が集まる会議などで経営者に意見や要望を述べる機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員ひとり、ひとり中間、年度末に評価を行い個人面接の中でふり返りを行い出来ていた点、不十分な点を明確にして向上心が持てるようにしている。その際に個々の要望も聞き反映している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人、一人に法人内で用いる考課表を基に評価を行いケアの力量について把握している。法人内、ユニットでも定期的に研修を行っている。法人外でも各職員が皆研修に行きスキルアップできるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	府中町域事業者懇談会に可能な限り出席し情報交換や交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に直接面接を行い困っている事、要望等を事前に聞き本人の安心を確保してからの入所としている。実際に自宅を見学し不安を少しでも軽減出来る環境を整えている。入所後も定期的にカンファレンスを行い不安などを聞く機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相談から利用まで面接機会を多く持ち求めている事を事前に準備して利用にいたる。利用中も定期的に家族カンファレンスを行い意見を求めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用前に自宅を見学したりと環境を整える事を行い生活層に沿ったなじみのサービスも計画する事などの対応に努めている。他のサービス利用も含めご家族と話し合い共に対策を立てるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ケアに携わる事で会話などから感じ取れることから学び自己のケアの向上に努めるように指導している。支え合う関係を築くように理念にあげている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた際に日々の生活の様子を伝えていくなかで色々な思いを共有できる関係作りを努めている。また月1回の外食行事にはご家族に参加して頂き介助のお手伝いもして頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みのある場所への外出を積極的に行っている。行きつけの美容院に行かれるご利用者の方もいる。	馴染みの美容院や病院へ通ったり、お墓参りなど家族と共に支援を行っている。また、利用者の友人などの来客や馴染みのボランティアや業者との交流を大事に関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人が孤立しないよう職員も間に入り食事・レクリエーション・外出の場を活用し関わりが持てるよう個別支援を大事にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時にご家族様に対して今後何かお困りになりましたら何でもご相談下さいと必ず話すようにし、気軽に来て頂ける雰囲気作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のアセスメント記録で入居者の希望の把握に努めカンファレンスにて検討している。	日常介護やコミュニケーションの中で思いや意向の把握に努めている。また、特筆すべきことをこまめに記録し、本人本位に検討したり、職員で共有することに役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用前の面接から生活歴や馴染みのある暮らしという点に着目し家族、入居者から情報を集め生活環境に違和感のないよう実際に自宅見学など行い家具などを居室に置くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的のカンファレンスの中で一日の過ごし方に着目し入居者の力の発揮の場を位置づけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者参加のカンファレンスを行い意見を求めている。家族カンファレンスを定期的に行い意見を求めている。両面からの意見を反映した介護計画を作成している。	入所時にアセスメント情報を取りまとめ、カンファレンスを行ない、介護計画を作成している。また毎日、アセスメント情報や介護計画に沿って行なったことを記録し、定期的に利用者や家族を含めたカンファレンスで計画を見直している。利用者と家族とのコミュニケーションを密接に取りながら介護計画の実施に日々取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のアセスメント日誌を細かく記入し情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。アセスメント日誌では精神、身体状態ケアの実践状況などを細かく記録している。特記事項としては申し送り事項を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の(家に物を取りに帰りたい、行きつけの美容院に行きたい)といった要望に対して実現出来るように支援している。実際に要望に答えた外出(行きつけの美容院に行く)を行っている。言葉で表現出来ないご利用者の要望に対しては日常の単語・行動から把握し実現への支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣公民館で活動しているオカリナボランティアとの交流や外部から講師を招き書道教室、フラワーアレンジメント、アートフラワーなどの文化教室を行い心身の力の発揮につなげている。消防署の指導のもと館内で出火した想定で避難訓練を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族の希望の医療機関を利用してもらっている。精神科領域の方の対応については特に慎重に行い主治医との連携を密に行い適宜相談、報告し指示を頂き対応している。	利用者・家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診を支援している。必要に応じて利用者の通院に付き添って医師への報告を行い診断結果を聞くこともあり、医師との連携は丁寧に行なっている。また、週2回、提携医には往診に来ていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎朝のバイタル、申し送りをグループホーム看護師に報告し健康管理を行っている。看護師からも嘱託医と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際早期退院出来るように入院先に原則週1回以上行き状態把握し医師・家族とのカンファレンスに参加し情報交換を行い退院後の準備に備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合こまめに主治医、家族でのカンファレンスを行い今後の方針を決め共有している。各ユニット管理者が外部のターミナル研修に参加しターミナルケアが必要となった際に備えている。	入居の際に事業所の取り組みを説明し、入居後は状況に応じて相談やカンファレンスを開いて方針を関係者で共有している。希望に添えるように管理者をはじめ職員は研修を受け、備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	不定期ではあるがユニット会議中にも急変時を想定して訓練を行っている。看護師からの指導、町内の消防署による救急に関する対応の訓練、勉強会も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難経路や避難場所を確認したりと災害時の対応は行っている。館内又はグループホームより火災した想定で避難訓練を行っている。運営推進会議の中で地域住民にも協力を求めている。	年2回、昼と夜を想定した避難訓練を消防署の指導のもとに行っている。館内の他施設との連携、利用者・職員の避難経路の動きなどを実際に確認している。	近隣住宅街の住民を巻き込んだ訓練などを通じて地域住民との協力関係が前進することを期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーに関わる言葉かけは皆の前で行わず自居室で行うなどの配慮を行っている。ユニット会議内でも職員がお互い注意喚起し合っている。法人接遇マニュアルにそって対応している。	今年度は接遇向上の強化年度となっており、ユニットには接遇委員が、法人には接遇委員会が設置され、法人全体で意見交換や改善活動を実施し、接遇向上に取り組んでいる。職員毎に接遇に関するチェックも行われ、徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常に思いや希望を聞き支援している。ご本人が自己決定できるよう選択肢のある言葉かけを行うように努めている。表情や行動からも思いや希望を読み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	簡単な業務は決めているが入居者中心の生活を心がけている。入居者のペースがくるったり希望にそっていない業務優先になっている時はユニット会議で過ごし方などを確認し修正するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自宅からご本人が着ていた服を持参して頂き服の組み合わせもご本人に選んで頂いている。新しく服を購入する際はご本人と洋服屋へ出かけ選んでもらっている。月2回出張理美容が来ておりご本人の好きな髪型にされている。行きつけの美容室がある方はそちらを利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備から職員が一時的に行うのではなく入居者と共に行う。片付けも同様個々で役割を持ちながら入居者と共に行っている。晩酌の習慣があった方はお酒をお出ししたりと好みにあった食事に努めている。食事の食べ方やペースを考慮し席の配置を決め職員が間に入りゆっくり食事が摂れるように工夫をしている。	利用者は職員と共に料理の本を参考にメニューを選んだり、食事の準備や片付けを一緒に行ったり、利用者はできる範囲で職員と一緒に食生活を楽しんでいる。外食も企画して、参加できる家族と一緒に外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分は1日1000CC以上、食事は毎食ほぼ全量摂取出来るようにはチェック表を活用し確保している。水分量、食事量低下し確保できない場合は家族にご協力頂きご本人の好みの物を購入し併用しながら食事、水分量を確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行って頂くため言葉かけを行いご自分で出来ない方は必要に応じて介助を行い確実に行うようにしている。口腔ケアに関してアセスメント日誌内に確認欄を設けチェックを毎日行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し一人一人の排泄状況を分析しパターンを把握する事でトイレでの排泄が行えるようにしている。紙パンツはなるべく布パンツに切り替えパットも外せるように心がけている。	排泄パターンを把握し、状況に合わせて声かけをして自立した排泄が行えるように支援している。なるべく布パンツでの生活に戻れるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味の方には牛乳などの乳製品を飲んで頂き個々での散歩など運動を行い下剤に頼らず自然排便となるように心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日には捉われず2日に1回入浴出来るようにしている。午後1時半から5時まで入浴を行っているが時間内で一人一人の希望に合わせている。時折雰囲気を変え館内の大風呂を使用し入浴して頂いている。	入浴は ゆっくりリラックスして入浴していただけるようにしている。2階の大風呂を利用することもある。入浴剤を変えたり、会話や歌を楽しんだり、楽しんで入浴できる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転したり生活不活発とならない程度で個々の居室に自由に帰って頂き休息して頂いている。居室でも安心して休んで頂けるよう寝具など馴染みの物を配置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々で医療ファイルを作成し薬状をファイルして内服薬の目的、副作用について職員全員が理解したうえで配薬を行っている。症状の変化時には主治医と連携をとり服薬コントロールを行うなどの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴から個々の役割を持って頂き洗濯・食事作り・片付けなど得意なものを分担している。趣味の時間をもうけ書道やお茶会などのレク活動で気分転換を図っている。希望される方は館内合同で実施している文化教室への参加を支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望時にはなるべく戸外に出て閉鎖的にならないようこころがけている。季節に合わせて花見をご家族と共に行っている。夏には盆踊りに出かけたりに月に1回外食を行いご家族にも参加して頂いている。	天気の良い日はテラスや中庭で自由に散歩をしていただいている。屋上には家庭菜園があり、職員と一緒に大根などの野菜を育てている。近所への散歩も職員と一緒によく出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はご本人が管理しており管理困難な方についてはホームでお預かりしている。必要に応じてその都度お渡ししている。支払いも自分で出来るように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望者は自室に電話を引かれている。ホームにも3台固定電話があり希望時には使用して頂きご家族の声を聞きたいのではと職員が判断した時には電話するように支援している。手紙でご家族とのやりとりを希望されるご利用者様もおられる。			
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある飾りや花を置くなど居心地に配慮している。職員本位のものをおかず入居者の安らぐよう工夫入居者の心安らぐよう工夫している。視界や音など一人一人が落ち着くよう検討し日々コーディネートを行っている。屋上、庭の畑に季節の食材を植え季節に応じて収穫出来るように工夫している。結びユニット…共同空間から見えるベランダには花を植え花が見えるようにしている。	2ユニットともに一階にあり、掃き出し窓から植え込みや外の様子を見ながら、ゆったりと過ごせるリビング兼食堂がある。フラワーアレンジメント教室で作った作品などを飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。玄関からは中庭に通じ、自由に散歩したり、屋外でのちょっとしたイベントを開ける空間がある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同生活室や廊下にソファを置き思い思いに過ごせる空間を設けている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は馴染みのある物を持ちこんで頂き入居者が使いやすいように馴染みのある家具や仏壇等配置し居心地よく生活出来るように工夫をしている。	備え付けの家具に加えて、利用者の馴染みの家具や飾り付けがされ、利用者が居心地よく過ごせる工夫がされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員が全て行うのではなく掃除・食事作りなど入居者の力の発揮の場を作り自立した生活が行えるよう時には寄り添い共に行い工夫している。			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="radio"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④ その他（ ）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	<input type="radio"/>	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		<input type="radio"/>	② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		<input type="radio"/>	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="radio"/>	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="radio"/>	⑤ その他（ ）

2 目標達成計画

事業所: グループホームチェリーゴード

作成日 平成 22年 11月 13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	町内会加入が出来ていない。	町内会加入し地域と良好な関係作りを行う。	町内会加入し参加可能な地域行事参加を行っていく	平成22年11月～平成22年4月
2	3	運営推進会議に外部参加者が少ない。	会議内で様々な参加者と意見交換しサービス向上に活かす。	第1～4町内会会長や民生委員など広い地域の参加者を募る	平成22年11月～平成22年10月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。